

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

お客様向け資料 | 2020.10

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）
Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）
Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）

パフォーマンスの源泉となる企業文化と運用の特徴

1996年1月に設定後、24年超の運用実績をもつ当ファンドと同種の運用戦略。2020年9月末時点での設定来のパフォーマンスは、約8倍になっています（円ベース、信託報酬控除後）。世界株式市場と比較しても相対的に良好な当運用戦略のパフォーマンスが、どのように生み出されるのか。その源泉となるティー・ロウ・プライスの企業文化と当ファンドの特徴をご紹介します。

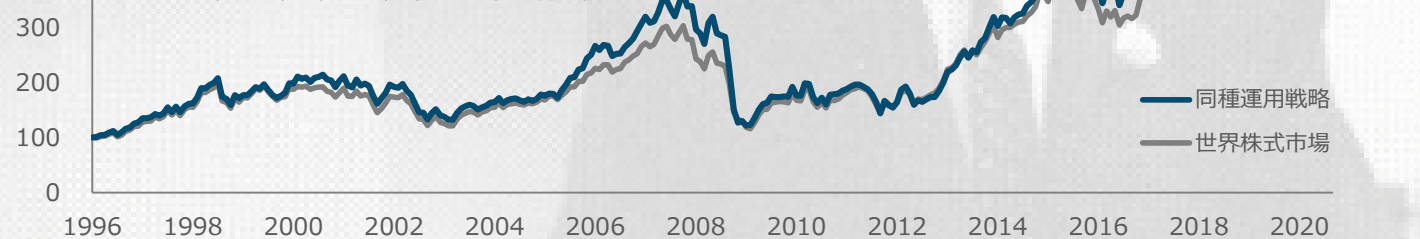
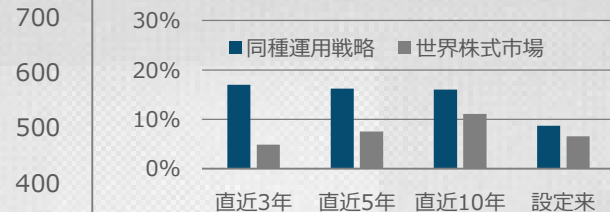
戦略の運用資産残高

約2.2兆円*1

当ファンドと同種の運用戦略パフォーマンス*2と世界株式市場*3

・期間：1996年1月末～2020年9月末（月次）
・同種運用戦略の運用開始日 1996年1月末＝100として指数化
・同種運用戦略のパフォーマンスは円ベース・信託報酬（税込1.683%）控除後

年率パフォーマンス比較



24年8ヵ月で約8倍

出所：MSCIのデータをもとにティー・ロウ・プライスが作成。

*1 2020年6月末現在。1米ドル＝107.885円で換算。*2 当ファンドと同種の運用手法で運用されているコンポジットを用いています。

*3 世界株式市場は2000年12月末まではMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引前配当再投資）、2001年1月以降は同インデックス（税引後配当再投資）の米ドルベースのリターンをティー・ロウ・プライスが円換算したものを使用しています。過去の実績は将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。上記で示した運用実績は、当ファンドが実質的に採用する運用手法と同様の手法で運用されているコンポジットのものであり、当ファンドのものではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

ティー・ロウ・プライスの企業文化

創業以来不変の経営理念

「お客様の成功こそが、私たちの成功」

80年超の
歴史

約132兆円*1
の運用資産

協働の文化

1937年、ティー・ロウ・プライスは米国ボルティモアで創業して以来、「顧客第一主義」を経営理念とし、80年以上にわたり、運用ノウハウと実績を培ってきました。最良のパフォーマンスを長期で提供することを目指す文化が根付いていることから、戦略に適したファンド規模の管理は徹底されています。また、約680名のポートフォリオ・マネジャーやアナリスト達は「競争」ではなく「協働」することが求められ、資産クラスの垣根を越えて投資アイデアの交換や情報共有を行っています。

新型コロナウイルスの感染拡大により市場の先行きが非常に不透明な状況に陥った環境下でも、企業文化の強みが発揮されました。当運用戦略の運用責任者であるデイビッド・アイズワートは、2020年2月に社内ミーティングの中でアナリスト達と次のような会話をしています。

6ヶ月以内に新型コロナウイルスが落ち着くと仮定した場合、今どの銘柄を買わなければ後悔するか、各アナリスト3銘柄ずつ、理由を1行だけ付けて送って欲しい。

感染拡大が6ヶ月以上続くかもしれない。その際に、アナリスト達に責任を負わせるようなことはしない。今後3ヶ月から6ヶ月のダウンサイドリスクは気にせず、銘柄のアイデアを出して欲しい。長期の勝ち組で、将来巨大な付加価値を創出できる銘柄だ。

Set your fear of loss aside for a moment.
Focus on your fear of future regret!

しばらくは、損失を恐れずに、将来、後悔しないことに注力しよう！

運用責任者
David Eiswert デイビッド・アイズワート

当ファンドの運用の特徴

特徴1 幅広く成長機会を捉える

- 当ファンドでは、企業に成長をもたらす変化を「競争優位を背景に成長する企業」と「収益・株価の急回復が期待される成長企業」という2つの異なる視点から捉え、企業のあらゆる成長機会を捉えることを目指します。
- さまざまな成長パターンの組み合わせは、ファンド全体の安定的な成長をもたらすと考えます。

特徴2 バイ・アンド・ホールド(買い持ち)にしない

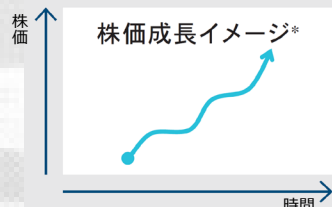
- 当ファンドでは、中長期の有望銘柄であっても単純な買い持ちとしません。成長企業は常に高い競争に晒されていることもあり、“変化”に対応すべく常に目を光らせている必要があると考えためです。ティー・ロウ・プライスが誇る調査力を活用して、きめ細かく機動的なポートフォリオ運用を心がけています。
- また、当社は名だたる企業の大株主として名を連ねており、長期にわたる調査を通じて培った経営陣との良好な関係があるからこそ、経営陣へのアプローチが可能になります。これらの投資対象に対する知見がより的確な企業評価につながり、銘柄選択において独自の強みを発揮します。

特徴1 幅広く成長機会を捉える

競争優位を背景に成長する企業

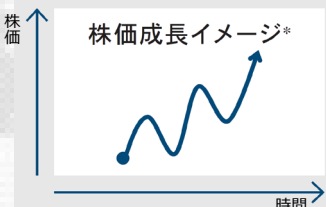
持続成長銘柄

銘柄の特徴
イノベーション（技術革新）や革新的なビジネスモデルなどで創造的破壊を伴って成長する企業
株価は？
革新的な技術を有する競争優位な企業は経済サイクルを超えて長期的な株価成長に期待



循環成長銘柄

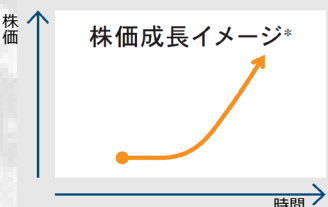
銘柄の特徴
価格競争力などを背景に経済サイクルを通じてシェアを拡大させ一層強固な収益基盤を実現する企業
株価は？
不要期になれば株価が一時的に調整するも、次の経済サイクルで前回の高値を越える株価成長に期待



収益・株価の急回復が期待される成長企業

ターンアラウンド(方向転換)成長銘柄

銘柄の特徴
事業再生、経営改革、業界再編、規制改革などを契機に収益の急回復を遂げる成長企業
株価は？
独自の成長要因を持つ業態変貌企業は独自の株価成長パターンに期待



特徴2 バイ・アンド・ホールド(買い持ち)にしない

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンドの組入上位10銘柄の推移

2019年6月末

銘柄名	国/セクター	比率
1 フェイスブック	米国/コミュニケーション・サービス	3.7%
2 エシティ	スウェーデン/生活必需品	2.9%
3 センプラ・エナジー	米国/公益事業	2.8%
4 テンセント・ホールディングス	中国/コミュニケーション・サービス	2.7%
5 アルファベット	米国/コミュニケーション・サービス	2.6%
6 サムスン電子	韓国/情報技術	2.6%
7 ペクトン・ディッキンソン	米国/ヘルスケア	2.5%
8 アマゾン・ドット・コム	米国/一般消費財・サービス	2.5%
9 ネットフリックス	米国/コミュニケーション・サービス	2.1%
10 ダナハー	米国/ヘルスケア	2.1%

2019年12月末

銘柄名	国/セクター	比率
1 サムスン電子	韓国/情報技術	3.1%
2 アルファベット	米国/コミュニケーション・サービス	2.8%
3 テンセント・ホールディングス	中国/コミュニケーション・サービス	2.7%
4 チャールズ・シュワブ	米国/金融	2.6%
5 アドバンスト・マイクロ・デバイス	米国/情報技術	2.5%
6 ロンドン証券取引所グループ	英国/金融	2.4%
7 アップル	米国/情報技術	2.3%
8 アリババ・グループ・ホールディング	中国/一般消費財・サービス	2.3%
9 インテリジェント・サージカル	米国/ヘルスケア	2.2%
10 エアバス	フランス/資本財・サービス	2.0%

2020年9月末

銘柄名	国/セクター	比率
1 アマゾン・ドット・コム	米国/一般消費財・サービス	4.1%
2 アップル	米国/情報技術	3.0%
3 フェイスブック	米国/コミュニケーション・サービス	3.0%
4 マスターカード	米国/情報技術	2.9%
5 ロンドン証券取引所グループ	英国/金融	2.9%
6 クアルコム	米国/情報技術	2.7%
7 モルガン・スタンレー	米国/金融	2.4%
8 フェデックス	米国/資本財・サービス	2.2%
9 マキシム・インテグレートッド	米国/情報技術	2.1%
10 HDFC銀行	インド/金融	2.0%

セクターはMSCI/S&P世界産業分類基準（GICS）の産業グループを使用しています。

組入比率は対純資産総額の割合です。引用した個別銘柄等につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものではありません。また、上記は過去の保有状況を示しており、将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

*株価成長イメージは情報提供を目的として作成したものであり、将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

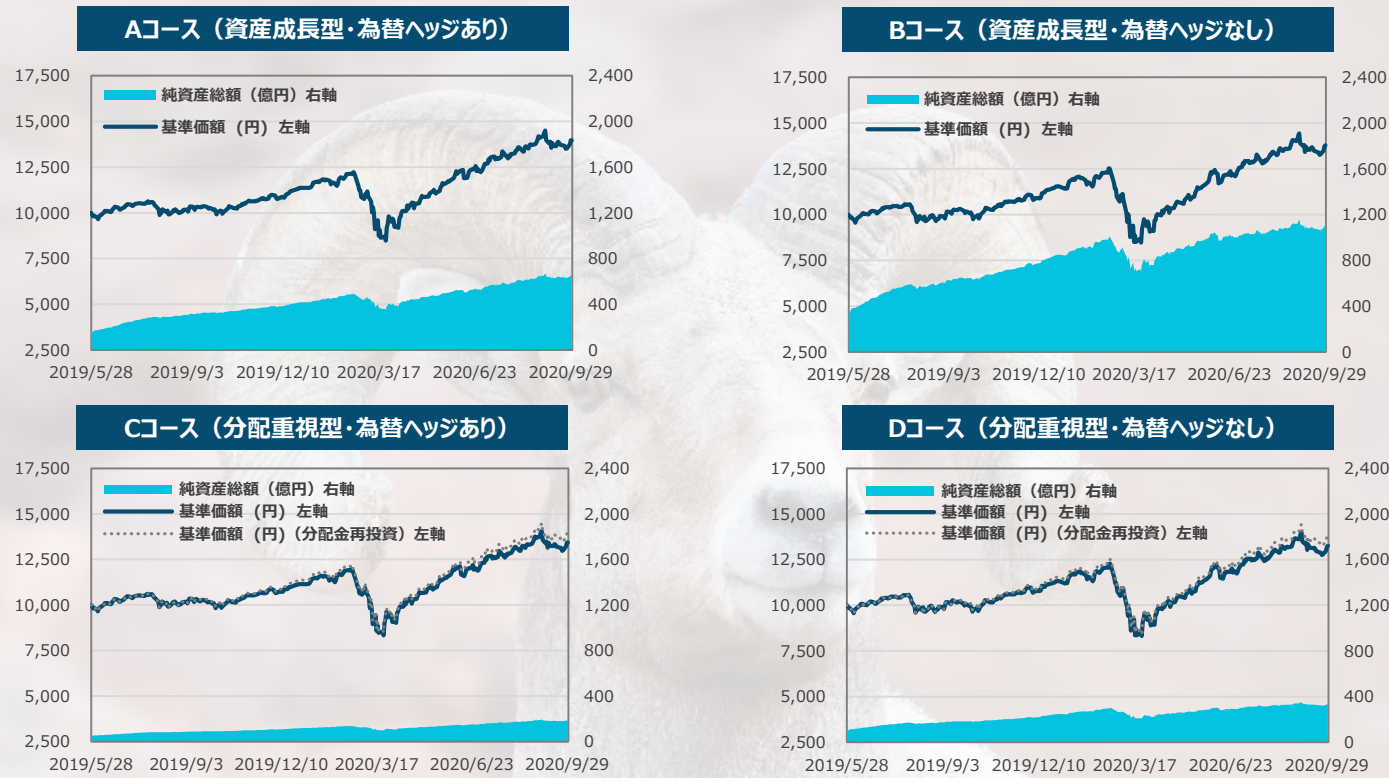


各ファンドの基準価額

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり） / Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり） / Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）

各ファンドの基準価額（2019年5月28日（設定日）～2020年9月30日）



※基準価額は1万口当たりです。
※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。なお、Aコース・Bコースは、表示期間において分配金のお支払はありません。
※基準価額（分配金再投資）は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。
※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1** ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界各国の株式（エマージング・マーケット*も含みます。）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。
*エマージング・マーケットとは、中国、インド、東南アジア、中南米、ロシア、東欧諸国、中東など、経済の発展段階にある国や地域の市場をいいます。
 - 2** 銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ*1」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス*2のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。
*1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。
*2 委託会社およびその関連会社をいいます。
 - 3** Aコース／Cコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジ（主要国通貨による代替ヘッジを含みます。）を行い、為替変動リスクの低減を図ります。
Bコース／Dコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - 4** 決算頻度と為替ヘッジの有無の異なる4つのコースからお選びいただけます。
- ※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。
※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

分配金の留意事項について

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行う場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。
- 計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算期末の基準価額は前期決算期末の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部払い戻しに相当する場合があります。

ファンドの費用

お客様が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入金額（購入申込日の翌営業日の基準価額×購入口数）に対し、以下の率を乗じて得た額とします。	
	購入代金	購入時手数料率
	1億円未満	3.30%（税抜3.00%）
	1億円以上5億円未満	1.65%（税抜1.50%）
	5億円以上	0.55%（税抜0.50%）
	※購入代金＝購入口数×基準価額＋購入時手数料（税込） ※スイッチングによる購入は無手数料とします。	
信託財産留保額	ありません。	

お客様が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に対し、 年1.683%（税抜1.53%） の率を乗じた額が運用管理費用（信託報酬）として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。	
その他の費用・手数料	信託事務の諸費用等	法定書類等の作成等に要する費用（有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用）、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%（税抜0.1%）を上限とする額が毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
	売買委託手数料等	組入る有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、信託財産から支払われます。※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

投資リスク

投資信託は預貯金と異なります。ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。**ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。**基準価額の主な変動要因は、「株価変動リスク」、「為替リスク」、「エマージング・マーケットおよびカントリー・リスク」があります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

当資料に関する注意事項等

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客様向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、本資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りの上、内容をよくお読みください。また、投資のご判断はお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。
- 投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- 「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ、インクの商標または登録商標です。当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

詳しくは、契約締結前交付書面および投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

設定・運用は

野村證券

商号等：野村證券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会：日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/一般社団法人第二種金融商品取引業協会

T. Rowe Price

商号等：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3043号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会/一般社団法人投資信託協会